

# 守門大岳山行記録



目的地	守門大岳	期 日	平成20年2月11日(月:祝)
山行人	笠原正雄単独	特 記	絶好天、絶好展望を堪能:終日快晴

地 点 名	時 刻	記 事
与 板	6:00 発	YHC ポストに届け投函。濃霧。明るくなって霧が晴れる。路面に雪は全く無い。
除雪最終地点	7:30 歩き出し	この時点で駐車は5台、思ったより少ない。壺足スタート。他に40歳台夫婦がスノーシューで歩き出すが、それ以外は山スキーである。少しずつ車が入ってくる。
カンジキを履く	8:05	大平橋から左折して林道を進むが、途中からスキーヤーの斜面登りに倣って法面をキックを混じえて登る。小千谷からの同年代スキーヤーに追いつき暫くは話しながら進む。先行して、林間に入り高坂カンジキを履く。
長 峰	9:00	長峰に上がった所で縛り方が不完全だったカンジキを縛りなおす。追越した小千谷さんが追付いて来た。目指すピークと袴岳方面がはっきり見える。
林 間 歩 き	9:05	長峰駐車場手前の緩登で、トレースを離れ、林間に入りカンジキの具合を試す。およそ脛上程度沈む。ここでスノーシュー2人隊に追い越される。
保久礼小屋上	9:20~9:30	小屋前広場には降りず、尾根上で立ち休み。小千谷氏もやって来た。宿木ならぬ宿雪を避けて、会話しながら、おにぎり1個を食べる。単独スキーヤーが先行して行った。途中で前後したスノーシュー2人隊とほぼ同時に歩き出す。溝となったトレースはカンジキにはやや狭く、少しヘリが当たり歩き難い。スノーシューに比べると雪面をとらえる力が弱いと感じる。それでもトレース外を歩くよりも楽だ。
疎林となる	10:20	アンパン休み。単独山スキーに追越され、続いて小千谷氏を含む3人に追越される。
滑降者等とスライド	11:10	雪原歩きの途中、既に登頂を果たした山スキーが降りてくる。山頂下で朝のスノーシュー2人隊と一人のスキーヤーとスライド。寒いので下に降りてランチと言う。
守門大岳	11:25 着	5人居た。スコップで風衝雪穴を掘る。踏みしめて掘るが雪が崩れてまとまらない。積もったままの雪を仕切って掘るほうがうまくいく。餅を焼きカップソバに入れてランチ。朝の40台夫婦が上がって来た。朝のもう一つの群馬からの3人男女隊も来た。3人に雪穴を譲り下山準備。所が、カンジキのゴム紐が片方見当たらない。スコップで掘り探す。雪堀でその下になったのだ。見つかってホッとした。無ければ下山が難儀だ。1人袴方面に向かう者が居た。
下山開始	12:55 発	2人を残すのみ。殆んどが長居をせずに下山する。山スキーが上がってくる。
保久礼小屋	1:40	今度は小屋の様子を見に降りる。積雪は3m位か。1人が腰を下ろしていた。尾根に上がり立止まってアンパンを食べていると途中で追越した40台夫婦が降りて来て先行した。再び追いつきしばらく話しながら歩く。
一枚脱ぐ	2:05	暖かくなり林道に沿う道でフリースを脱ぐ。この手前で高校生ほどの女子とスライド、一声かけるが頂まで届くだろうか。もう1人男とスライド。両人共スキー歩行。
除雪最終地点	3:00 着	残り車3台。40台夫婦来る。単独男が「足が棒になった」と言いながら車に戻る。

小国猿鼻山、米山下牧、小国百石山と3週続いて賑やかな山だった。久しぶりの単独行だ。一方、百石山の際、戴いた高坂カンジキを試してみたかった。上記したが、この山に関してはスノーシューの方が適していると思った。3年前の4/2に保久礼までのルートは違うが、山頂まで上がっている。その時は保久礼にザックデポで空荷、アルミワカンで山頂まで1:25だった。積雪も今回より多かった。雪質も異なっていた。今回はゆっくりで1:55かかっている。